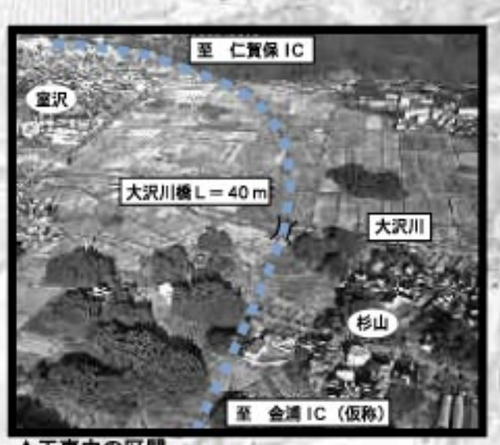
日沿道両前寺（7号合流部）付近

「日沿道の整備効果と全線整備に向けて」



▲工事中の区間
（仁賀保IC―金浦IC間）

日沿道開通により交通事故4割減
岩城―仁賀保間

一昨年の9月17日、日沿道岩城IC（インターチェンジ）からにかほ市両前寺（7号合流部）間が開通し、仁賀保・本荘間の慢性的な渋滞は、交通が高速道路と国道7号に分散されたため、大幅に改善されました。

その効果について、昨年の12月、国土交通省秋田河川国道事務所より具体的な数値で発表がありました。それによると、岩城ICから仁賀保両前寺間が開通して以降、この区間と並行して走る国道7号と合わせた交通事故件数が前年比で約4割、死傷者数で同じく約3割減少しています。前年は国道7号のみだった同区間の交通事故数は、92件から53件に、死傷者も118人から79人に、中でも日沿道開通前には最も多かった追突事故が、72件から34件へと半減しました。

また、国道7号の日沿道並行区間を走る路線バスが10分以上遅れたケースも931件から405件といずれも大幅な減少となっています。

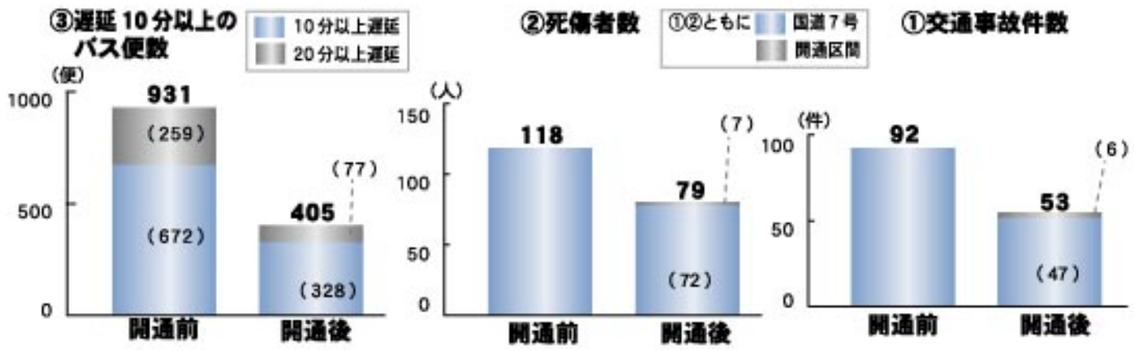
（下のグラフを参照ください）

～バス利用者の声～

○国道7号の車、特にトラックが減ったため、バスでの移動時間が、以前に比べ早くなったように思う。

○冬期でもバスの遅れが目立たなくなったので、待ち時間も少なく、時間が読めるようになって助かる。

※下のグラフ①②は日沿道仁賀保本荘道路間（岩城IC～両前寺7号合流部）と、国道7号の並行区間を集計したものです。
開通前：平成18年9月17日～平成19年9月16日
開通後：平成19年9月17日～平成20年9月16日



大沢川下部工工事の状況

仁賀保―象潟間の工事は順調に進む

現在進められている日沿道、象潟ICから金浦ICまでの延長6・8㎞については、設計協議や用地調査を実施するため、地元説明会が開催されており、この区間は平成21年度以降、用地買収の予定となっています。

また、金浦ICから仁賀保ICまで延長6・9㎞については、金浦ICから白雪川までの用地買収を行うための説明会を開催しており、順次、用地交渉に入る予定です。また、白雪川から仁賀保ICまで（現7号合流部まで）についても、用地買収が進められています。

工事関係では、仁賀保地域にある大沢川から室沢の中谷地までの道路改良工事が行われており、併せて大沢川に架かる橋の下部工も進められています。また、現国道7号を海側に付け替えするために、新しい7号を造る工事（仁賀保IC～7号合流部）も進められています。

今後は、白雪川から大沢川までの道路改良工事（地盤を安定させるための盛土工事やボックスカルバートなどの構造物の工事）が行われる予定となっています。

※ボックスカルバートとは高速道路と一般道や水路等が交差する部分などに用いられる、箱型のコンクリート構造物をいいます。

【現場見学会を受付しています】

◆問合先　秋田河川国道事務所工事品質管理官☎018・823・4167（代表）

秋田―山形県境部分の整備促進が大きな課題

日沿道は新潟県を起点とし、青森県を終点とする延長322㎞の高速自動車国道です。しかし、庄内と接する県境部分「酒田市～にかほ市象潟間」が基本計画区間のまま課題として残っています。現在、秋田―山形県境を結ぶ路線は一般国道7号のみで、万一、交通事故や災害により、その国道が通行不能となった場合、代替路線がないため、救急搬送や物流等に大きな不安を抱えています。高速道路はつながってこそ効果が発揮できるもので、このままでは充分な効果が期待できません。

本市を含め、全国の地方自治体では、人口の減少や少子高齢化社会の進展、厳しい財政状況の中、生き残りをかけてさまざまな取り組みを展開しています。観光による交流人口の拡大や企業誘致も、高速道路のネットワーク化をはじめとする道路整備が、地方の健全な発展には不可欠です。

県境部分の整備については、整備区間に格上げされるよう、遊佐町とともに中央省庁や関係する国会議員に、強く要望活動を展開していきます。また、酒田市、秋田市、由利本荘市からも協力を得ながら「日本海沿岸東北自動車道山形県・秋田県県境建設促進期成同盟会（仮称）」を早期に立ち上げる予定です。

秋田県の最南端にある本市にとって、市民の暮らしと産業を守るためにも日沿道の建設は、最も重要な政策です。市民が安心安全に暮らせるよう、産業振興と雇用の創出のため、地域社会を支える高速道路の建設運動を市民と一丸となって進めます。

◆問合先　企画情報課☎43・7510　都市整備課☎38・4307